

問 1 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 検査薬は、人体に対して直接使用されないため、人の健康に影響を与えることはない。
- b 一般に、医療用医薬品の方が一般用医薬品よりも副作用発現などのリスクが高い。
- c 医薬品の販売を行う者は、製造販売業者等からの情報に日頃から留意しておくことが重要である。
- d 一般用医薬品は、必要な情報が添付文書や製品表示に記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	誤	正

問 2 以下の投与量と効果又は毒性に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強く発現する(a)となり、(b)に至る。動物実験により求められる(c)は薬物の毒性の指標として用いられる。

	a	b	c
1	無作用量	致死量	LD ₁₀₀
2	中毒量	致死量	LD ₅₀
3	無作用量	中毒量	LD ₅₀
4	依存量	中毒量	LD ₁₀₀
5	中毒量	致死量	LD ₁₀₀

問3 第1欄の記述は、「医薬品等の基準」に関するものである。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

医薬品製造販売後の調査及び試験の実施の基準は、()という。

第2欄

1 GVP 2 GPSP 3 GCP 4 GLP 5 GMP

問4 健康食品等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 特定保健用食品の例として、キシリトールを含む食品がある。
- b 機能性表示食品は、「疾病に罹患した者の健康の維持及び増進に役立つ」旨を表示してよい。
- c 健康食品は、法的にも、また安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品と同等である。
- d 食品は、例外を除き、身体構造や機能に影響する効果を表示することができない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問5 酒類（アルコール）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収に影響を与えることがある。
- b アルコールは、主として腎臓で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する人は、その代謝機能が高まっていることが多い。
- c 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、アセトアミノフェンの薬効が十分に得られないことがある。
- d 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、代謝産物に薬効がある医薬品を服用した際に、作用が強くと出過ぎる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	正

問6 医薬品の副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品を使用中に重大な副作用の兆候が現れた場合は、基本的に使用を中止するべきである。
- b 一般用医薬品を販売する際、不安をあおらないために副作用に関する情報は知らせるべきではない。
- c 市販された一般用医薬品の効果や副作用などは、すべて解明済みである。
- d 医薬品は使用方法に従って十分に注意して使用していれば副作用が生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問7 医薬品の不適正な使用と有害事象に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、適正な使用がなされなければ、有害事象を招く危険性が高くなる。
- b 人体に直接使用されない医薬品についても、使用する人の誤解や認識不足によって、有害事象につながることもある。
- c 症状の原因となっている疾病の根本的な治療や生活習慣の改善等がなされないまま、一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けていても、有害事象を招く危険性が増すことはない。
- d 医薬品の説明は、購入者の理解力に即してなされるべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	正	正
5	正	正	誤	正

問8 次の記述は、医薬品の不適正な使用と有害事象に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 薬物依存から離脱することは容易である。
- b 医薬品をみだりに酒類と一緒に摂取するといった乱用がなされると、急性中毒等を生じる危険性が高くなる。
- c 医薬品は、使用する量が定められていない。
- d 青少年は、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 9 小児と医薬品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 大人に比べて身体の高さに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。
- b 一般的に血液脳関門が未発達であるため、医薬品の成分が脳に達しにくい。
- c 一般的に肝臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝に時間がかかる。
- d 一般的に腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の排泄が大人よりも速い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問 10 乳幼児と医薬品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品が喉につかえると、咳き込んで吐き出し苦しむことになり、その体験から乳幼児に医薬品の服用に対する拒否意識を生じさせることがある。
- b 一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しい。
- c 医薬品の使用上の注意において、乳児という場合には、おおよその目安として2歳未満のことをいう。
- d 乳幼児が誤って薬を大量に飲み込んだ場合には、一般用医薬品であっても応急処置等について関係機関の専門家に相談する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 11 次の記述は、高齢者と医薬品に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として75歳以上を「高齢者」としている。
- b 一般用医薬品の販売等に際しては、実際にその医薬品を使用する高齢者の個々の状況に即して、適切に情報提供がなされることが重要である。
- c 高齢者の基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が極めて小さい。
- d 高齢者の年齢のみから、一概にどの程度、副作用のリスクが増大しているかを判断することは難しい。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 12 第1欄の記述は、母体と胎児に関するものである。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

第1欄

胎児は、誕生するまでの間は、母体との間に存在する()を通じて栄養分を受け取っている。()には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組み【血液 - () 関門】がある。母体が医薬品を使用した場合に、血液 - () 関門によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、未解明のことも多い。

第2欄

1 羊水 2 肝臓 3 胎盤 4 子宮内膜 5 臍帯

問 13 医薬品の品質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 配合されている成分（有効成分及び添加物成分）には、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化（変質・変敗）を起こしやすいものが多い。
- b 適切な保管・陳列がなされなければ、医薬品の効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。
- c 適切な保管・陳列がなされた場合、経時変化による品質の劣化は避けられる。
- d 表示されている使用期限は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 14 次の記述は、一般用医薬品に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しいものである。
- b 薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているものである。
- c その役割の中には、健康状態の自己検査は含まれない。
- d 生活者が自らの疾病の治療、予防又は生活の質の改善・向上を図ることを目的としている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 15 セルフメディケーションに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a セルフメディケーションの主役は一般の生活者である。
- b 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行うべきである。
- c 情報提供は必ず医薬品の販売に結びつけるべきである。
- d 医療機関の受診を勧めたり（受診勧奨）、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	正

問 16 一般用医薬品の販売時に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、すべての一般用医薬品の販売、情報提供等を担っている。
- b 購入者側は、使う人の体質や症状等にあった製品を事前に調べて選択しているのではなく、宣伝広告や販売価格等に基づいて漠然と選択していることが少なくない。
- c 登録販売者は、購入者等が適切な医薬品を選択して適正に使用しようとするよう、働きかけていくことが重要である。
- d 一般用医薬品は、すぐに使用する場合に限り購入される。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 17 以下のサリドマイドに関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2 箇所の (b) 内はどちらも同じ字句が入る。

サリドマイド製剤は、日本において 1958 年に (a) 等として販売されたが、副作用として血管新生を (b) 作用があり、妊娠している女性が使用したところ、胎児に移行し、その胎児に先天性異常が発生した。

なお、サリドマイドの血管新生を (b) 作用は、サリドマイドの光学異性体のうち (c) 体のみが有するとされている。

	a	b	c
1	催眠鎮静剤	妨げる	R
2	解熱鎮痛剤	促進する	S
3	解熱鎮痛剤	促進する	R
4	催眠鎮静剤	妨げる	S
5	解熱鎮痛剤	妨げる	R

問 18 次の記述は、亜急性脊髄視神経症（スモン）とその訴訟に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a スモンの原因は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことによるものである。
- b スモンの症状として、初期に腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じる。
- c キノホルム製剤は、我が国では現在アメーバ赤痢治療に限定して販売されている。
- d スモン訴訟をひとつの契機として、医薬品副作用モニター制度が創設された。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 19 以下のヒト免疫不全ウイルス（H I V）訴訟に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

（ a ）患者が、H I Vが混入した原料血漿^{しょう}から製造された（ b ）の投与を受けたことにより、H I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。（ c ）を被告として、1989年5月に大阪地裁、同年10月に東京地裁で提訴された。その後、和解勧告が行われ、1996年3月に両地裁で和解が成立した。

	a	b	c
1	白血病	アルブミン製剤	医療機関
2	血友病	血液凝固因子製剤	医療機関
3	白血病	アルブミン製剤	国及び製薬企業
4	白血病	血液凝固因子製剤	国及び製薬企業
5	血友病	血液凝固因子製剤	国及び製薬企業

問 20 以下のクロイツフェルト・ヤコブ病（C J D）とその訴訟に関する記述について、（ ）の中に入れるべき語句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の（ c ）内はどちらも同じ字句が入る。

脳外科手術等に用いられていた（ a ）を介してC J Dに罹患^りしたことに対する損害賠償訴訟である。C J Dは、（ b ）の一種であるプリオンが原因とされ、プリオンが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

本訴訟をひとつの契機として、2002年に行われた薬事法改正に伴い、（ c ）製品の安全対策強化や（ c ）製品による感染等被害救済制度の創設等がなされた。

	a	b	c
1	ヒト乾燥硬膜	タンパク質	再生医療等
2	ヒト乾燥硬膜	タンパク質	生物由来
3	ヒト乾燥硬膜	ウイルス	生物由来
4	ウシ乾燥硬膜	タンパク質	生物由来
5	ウシ乾燥硬膜	ウイルス	再生医療等

問 21 かぜ等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a インフルエンザ（流行性感冒）は、細菌の呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
- b 冬場に発熱や頭痛を伴って悪心・嘔吐^{おう}や、下痢等の消化器症状が現れた場合は、かぜではなくウイルス性胃腸炎である場合が多い。
- c かぜは、生体に備わっている免疫機構によってウイルスが消滅すれば自然に治癒するため、安静にして休養し、栄養・水分を十分に摂ることが基本である。
- d かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑え、ウイルスを体内から除去する。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 22 かぜ薬の配合成分及び漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分に、ブロムヘキシン塩酸塩、エチルシステイン塩酸塩がある。
- b アドレナリン作動成分に、グリチルリチン酸二カリウムがある。
- c 単独でかぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に、加味逍遙散^{かみ しょうようさん}、桃核承気湯^{とうかくじょうきとう}がある。
- d 抗ヒスタミン成分に、クロルフェニラミンマレイン酸塩、クレマスチンフマル酸塩、ジフェンヒドラミン塩酸塩がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 23 解熱鎮痛成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 エテンザミドは、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強いが、水痘(水疱瘡)又はインフルエンザにかかっている15歳未満の小児に対しては使用を避ける必要がある。
- 2 アセトアミノフェンは、末梢における抗炎症作用は期待できないが、他の解熱鎮痛成分のような胃腸障害は少なく、空腹時に服用できる製品もある。
- 3 イブプロフェンは、アスピリンに比べ胃腸への悪影響が少なく抗炎症作用も示すが、全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病のある人において無菌性髄膜炎を生じやすい。
- 4 イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、ライ症候群の発生が示唆されている。

問 24 第1欄の記述は、鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

体力中等度以下で手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するものの頭痛、頭痛に伴う吐き気・嘔吐、しゃっくりに適すとされる。

第2欄

- | | | |
|---------|----------|--------|
| 1 芍薬甘草湯 | 2 釣藤散 | 3 呉茱萸湯 |
| 4 疎経活血湯 | 5 桂枝加朮附湯 | |

問 25 眠気を促す薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ブロモバレリル尿素は、反復して摂取しても依存を生じないことが知られている。
- 2 寝つきが悪いときの処置としてアルコールが摂取される(いわゆる「寝酒」)ことがあるが、飲酒とともにジフェンヒドラミン塩酸塩を服用しても差し支えない。
- 3 入眠障害、熟眠障害、中途覚醒、早朝覚醒等の症状が慢性的に続いている場合は、一般用医薬品で対処することが可能である。
- 4 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体型の変化等が原因であり、睡眠改善薬の適用対象ではない。

問 26 次の記述は、眠気を防ぐ薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 15歳未満の小児に使用してよい。
- b カフェインには、作用は弱いながら反復摂取により依存を形成するという性質があるため、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」という注意喚起がなされている。
- c カフェインの眠気防止に関連しない作用として、肝臓におけるナトリウムイオンの再吸収抑制があり、尿量の増加（利尿）をもたらす。
- d 十分な睡眠をとっていても、眠気防止薬の使用では抑えられない眠気が続くような場合には、医療機関を受診するなどの対応が必要である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 27 鎮暈薬^{うん}及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b ジメンヒドリナートは、延髄にある嘔吐^{おう}中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- c スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、肝臓で速やかに代謝されてしまうため、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間は短い。
- d 吐き気の防止に働くことを期待して、ビタミンAが補助的に配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 28 小児鎮静薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 夜泣き、ひきつけ、疳^{かん}の虫等の症状を鎮めることを目的とする医薬品であり、小児における虚弱体質の改善は目的としていない。
- b 保護者側の安眠等を図ることを優先して使用すべきである。
- c カンゾウは、小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤では主として健胃作用を期待して用いられている。
- d カンゾウを含有する漢方処方製剤を乳幼児に使用する場合、体格の個人差から体重当たりのグリチルリチン酸の摂取量が多くなることがあるので留意される必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問 29 次の記述は、鎮咳去痰薬^{がい たん}及びその配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a メチルエフェドリン塩酸塩は、副交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳^{せき}や喘息^{ぜん}の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- b トラネキサム酸は、痰^{たん}の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。
- c ジヒドロコデインリン酸塩は、副作用として便秘が現れることがある。
- d 鎮咳去痰薬^{がい たん}は、咳^{せき}を鎮める、痰^{たん}の切れを良くする、また、喘息^{ぜん}症状を和らげることを目的とする医薬品の総称である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 30 口腔咽喉薬、含嗽薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔内に使用される場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、扁桃腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。
- b 咽頭の粘膜に付着したアレルゲンによる喉の不快感等の症状を鎮めることを目的として、口腔咽喉薬に抗ヒスタミン成分を配合する場合は、咳に対する薬効を標榜することができる。
- c 有効成分が生薬成分、グリチルリチン酸二カリウム、セチルピリジニウム塩化物等のみからなり、効能・効果が「痰、喉の炎症による声がれ、喉の不快感」の製品は、医薬部外品として扱われている。
- d 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃ければ濃いほど効果が大きい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 31 制酸薬、健胃薬及び消化薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消化薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。
- b 制酸薬の配合成分として、胃酸の働きを強めるもの、胃液の分泌を促すものなどが用いられる。
- c 消化不良、胃痛、胸やけなど症状がはっきりしている場合は、症状に合った成分のみが配合された製品を選択することが望ましい。
- d 医薬部外品の健胃薬、消化薬は、人体に対する作用が緩和なものとして、配合できる成分やその上限量が定められている。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	誤

問 32 胃粘膜保護・修復成分に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

アルジオキサ、スクラルファートは()を含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。透析治療を受けていない人でも、長期連用は避ける必要がある。また、腎臓病の診断を受けた人では、()が体内に貯留しやすいため、使用する前にその適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。

- 1 銅 2 鉄 3 亜鉛 4 アルミニウム 5 コバルト

問 33 止瀉成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ビスマスを含む成分は、腸粘膜をひきしめる（収斂）ことにより、腸粘膜を保護することを目的として配合されている。
- 2 ロペラミド塩酸塩は、腸管の運動を低下させる作用を示し、胃腸鎮痛鎮痙薬との併用は避ける必要がある。
- 3 タンニン酸ベルベリンは、収斂作用を持つタンニン酸と抗菌作用を持つベルベリンの化合物であり、消化管内でタンニン酸とベルベリンに分かれる。
- 4 生薬成分のカオリンや薬用炭は、過剰な腸管の（蠕動）運動を正常化し、あわせて水分や電解質の分泌も抑える止瀉作用がある。

問 34 次の記述は、腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 桂枝加芍薬湯は、構成生薬としてカンゾウを含み、体力中等度以下で腹部膨満感のある人のしぶり腹に適すとされる。
- b 大黃甘草湯は、構成生薬としてダイオウを含み、体力中等度以上で、下腹部痛があって、便秘しがちなものの月経不順、月経困難、月経痛、便秘、痔疾に適すとされる。
- c 大黃牡丹皮湯は、構成生薬としてダイオウを含み、体力に関わらず広く応用され、便秘、腹部膨満、腸内異常発酵の症状の緩和に適すとされる。
- d 麻子仁丸は、構成生薬としてダイオウを含み、体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なものの便秘に適すとされる。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 35 胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- 2 抗コリン作用を有する成分を含有する医薬品どうしが併用された場合、失禁や唾液分泌過多等の副作用が現れやすくなる。
- 3 痛みが次第に強くなる、痛みが周期的に現れる、嘔吐^{おう}や発熱を伴うなどの場合は、胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}を用い、受診勧奨はしなくてよい。
- 4 胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}に配合される抗コリン成分としては、オキセサゼインがある。

問 36 駆虫薬等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 駆虫薬は、一度に多く服用すると駆虫効果が高まる。
- b 回虫^{ぎょう}や蟯虫の感染は、その感染経路から、通常、衣食を共にする家族全員にその可能性がある。
- c 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すために併用される瀉下薬^{しゃ}として、ヒマシ油が最適である。
- d 回虫は、肛門^{こう}から這い出してその周囲に産卵するため、肛門部の痒み^{かゆ}やそれに伴う不眠、神経症を引き起こすことがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問 37 次の記述は、強心薬等に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 白虎加人参湯^{びゃっこかにんじんとう}は、体力中等度以下で、めまい、ふらつきがあり、ときにのぼせや動悸^きがあるものの立ちくらみ、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸^き、息切れ、神経症、神経過敏に適すとされる。
- b ジャコウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壮、血行促進等の作用があるとされる。
- c 気つけとは、心臓の働きの低下による一時的なめまい、立ちくらみ等の症状に対して、意識をはっきりさせたり、活力を回復させたりする効果のことである。
- d センソは、有効域が比較的狭い成分であり、1日用量中センソ5mgを超えて含有する医薬品は劇薬に指定されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 38 高コレステロール改善薬及びコレステロールに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 血漿^{しょう}中のリポタンパク質のバランスの乱れは、生活習慣病を生じる以前の段階では自覚症状を伴うものではない。
- 2 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ^{しび}）の緩和等を目的として使用される。
- 3 ガンマ-オリザノールには、LDL等の異化排泄^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、HDL産生を高める作用がある。
- 4 大豆油不飽和^{けん}化物（ソイステロール）では、悪心（吐き気）、胃部不快感、胸やけ、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。

問 39 貧血用薬（鉄製剤）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 食生活を改善し、かつ鉄製剤の使用を2週間程度続けても症状の改善がみられない場合には、鉄製剤の使用を漫然と継続することは適当でない。
- b 貧血の症状がみられる以前から予防的に鉄製剤を使用すべきである。
- c 複数の貧血用薬と併用すると、胃腸障害や便秘等の副作用が起こりやすくなる。
- d 胃への負担を軽減するため、腸溶性とした製品もある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問 40 以下の循環器用薬の漢方処方製剤である三黄瀉心湯さんおうしゃしんとうの記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

体力中等度以上で、（ a ）気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状、鼻血、痔出血じしゅつ、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人、だらだら出血が長引いている人では不向きとされる。

構成生薬として（ b ）を含む。

（ c ）に用いる場合には、漫然と長期の使用は避け、5～6回使用しても症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止する。

	a	b	c
1	のぼせ	ダイオウ	更年期障害
2	貧血	マオウ	鼻血
3	貧血	ダイオウ	更年期障害
4	のぼせ	マオウ	更年期障害
5	のぼせ	ダイオウ	鼻血

問 41 次の表はある外用痔疾用薬に含まれている成分の一覧である。

ヒドロコルチゾン酢酸エステル	5 mg
テトラヒドロゾリン塩酸塩	1 mg
リドカイン	60mg
l-メントール	10mg
アラントイン	20mg
トコフェロール酢酸エステル	60mg
クロルヘキシジン塩酸塩	5 mg

この一般用医薬品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リドカインは、局所の感染を防止することを目的として配合される殺菌消毒成分である。
- b テトラヒドロゾリン塩酸塩は、血管収縮作用による止血効果を期待して配合されるアドレナリン作動成分である。
- c クロルヘキシジン塩酸塩は、肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して配合される組織修復成分である。
- d アラントインは、痛みや痒みを和らげることを目的として配合される局所麻酔成分である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 42 次の内服アレルギー用薬に配合される成分のうち、抗ヒスタミン成分ではないものの組み合わせはどれか。

- a ヨウ化イソプロパミド
- b アゼラスチン
- c ブロメライン
- d メキタジン

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 43 第 1 欄の記述は、婦人薬として使用される漢方処方製剤に関するものである。第 1 欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

体力中等度で皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの月経不順、月経困難、血の道症、更年期障害、神経症、湿疹・皮膚炎しんに適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第 2 欄

- | | | | |
|--------------------------------------|---|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 桂枝茯苓丸
<small>けいしぶくりょうがん</small> | 2 柴胡桂枝乾姜湯
<small>さいこけいしかんきょうとう</small> | 3 温清飲
<small>うんせいいん</small> | 4 四物湯
<small>しもつとう</small> |
| 5 当帰芍薬散
<small>とうきしゃくやくさん</small> | | | |

問 44 鼻炎用点鼻薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ナファゾリン塩酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- b グリチルリチン酸二カリウムは、鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として配合される場合がある。
- c アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- d クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎^{くう}に対しても有効である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問45 点眼薬の使用にあたっての一般的な注意に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 容器の先端が眼瞼^{けん}（まぶた）や睫毛^{しょう}（まつげ）に触れないように点眼する。
- b 結膜囊^{のう}内に行き渡らせることにより効果が増すため、一度に何滴も点眼する。
- c 開封されてから長期間を経過した製品は、使用期限内であっても使用を避けるべきである。
- d 点眼後は、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内^{くう}へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

問46 眼科用薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼薬を一定期間使用して症状の改善がみられない場合には、副作用の可能性も考慮し、漫然と使用を継続せずに、専門家に相談すべきである。
- b 結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として、ホウ酸が配合される。
- c 点眼薬は、結膜囊^{のう}に使用するものであり、通常、無菌的に製造されている。
- d 目のかすみ^{かすみ}が緑内障による症状であった場合、配合されている成分によっては、緑内障の悪化につながるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

問47 次の記述は、眼科用薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- b アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- c 硫酸亜鉛水和物は、眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して配合されている場合がある。
- d ビタミンB6は、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整等の反応を改善する効果を期待して用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問48 きず口等の殺菌消毒成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アクリノールは、真菌、結核菌及びウイルスに対して殺菌・消毒作用を示す。
- b ヨウ素系殺菌消毒成分（ポビドンヨードやヨードチンキ）は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌・消毒作用を示す。
- c チモールは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌・消毒作用を示す。
- d クロルヘキシジングルコン酸塩は、結核菌やウイルスに対する殺菌・消毒作用はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問49 一般的な創傷への対応に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 出血しているときは、創傷部に清潔なガーゼやハンカチ等を当てて圧迫し、止血するが、このとき、創傷部を心臓より高くして圧迫すると、止血効果が高い。
- b 火傷（熱傷）の場合は、できるだけ早く、水道水などで熱傷部を冷やすことが重要である。
- c 火傷（熱傷）による水疱（水ぶくれ）は、ただちに滅菌した器具で破り内容物を取り除く必要がある。
- d 殺菌消毒成分により組織修復が妨げられて、かえって治癒しにくくなったり、状態を悪化させることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問 50 歯槽膿漏薬の配合成分と配合目的の組み合わせの正誤について、正しいものはどれか。

	配合成分		配合目的
a	イソプロピルメチルフェノール	—	歯肉溝での細菌の繁殖を抑える
b	チョウジ油	—	歯周組織からの出血を抑える
c	ビタミンE	—	歯周組織の血行を促す
d	銅クロロフィリンナトリウム	—	炎症を起こした歯周組織の修復を促す

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 51 歯痛及び口内炎に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 歯痛は、多くの場合、歯の齶蝕（むし歯）とそれに伴う歯髄炎によって起こる。
- 2 歯痛薬は、歯の齶蝕による歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品である。
- 3 口内炎用薬であれば、ステロイド性抗炎症成分が配合されていても長期の連用は問題ない。
- 4 口内炎が長期間にわたって症状が長引いている場合には、口腔粘膜に生じた腫瘍などの可能性があるため、医療機関を受診するなどの対応が必要である。

問 52 禁煙補助剤の相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 口腔内^{くわう}が酸性になるとニコチンの吸収が増加するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内^{くわう}を酸性にする食品を摂取後、しばらくは使用を避けることとされている。
- 2 アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、禁煙補助剤の作用が減弱するおそれがある。
- 3 禁煙補助剤を使用中又は使用直後の喫煙は、血中のニコチン濃度が急激に高まるおそれがあり、避ける必要がある。
- 4 心臓疾患の診断を受けた人が禁煙補助剤を使用しても、心臓疾患の治療薬の効果に影響はない。

問 53 次の記述は、ビタミンに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a ビタミンAは、夜間視力を維持し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b ビタミンB 1は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素である。
- c ビタミンB 1 2は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- d ビタミンEは、タンパク質の代謝に関与し、神経機能の維持に重要な栄養素である。

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 54 滋養強壮保健薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a システインは、腎臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助けている。
- b アスパラギン酸ナトリウムは、乳酸の分解を促す働きを期待して用いられる。
- c ヘスペリジンは、ビタミンCの吸収を助ける作用があるとされている。
- d コンドロイチン硫酸ナトリウムは、関節痛、筋肉痛等の改善を促す作用を期待してビタミンB1等と組み合わせて配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 55 以下のビタミンDに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ビタミンDは、(a)でのカルシウム吸収及び(b)でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。

ビタミンDの過剰症として、高カルシウム血症、(c)が知られている。

	a	b	c
1	腸管	尿細管	異常石灰化
2	腸管	肝臓	高ビリルビン血症
3	腸管	尿細管	高ビリルビン血症
4	腎臓	肝臓	高ビリルビン血症
5	腎臓	肝臓	異常石灰化

問 56 漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- b 患者の「証」に合った漢方処方が選択されれば、効果が期待でき、間質性肺炎のような重篤な副作用が起こることはない。
- c 用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後6ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- d 症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 57 次の記述は、殺虫成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 有機リン系殺虫成分であるダイアジノンは、アセチルコリンエステラーゼと不可逆的に結合してその働きを阻害することにより、殺虫作用を示す。
- b オキサジアゾール系殺虫成分であるメトキサジアゾンは、アセチルコリンエステラーゼと可逆的に結合してその働きを阻害することにより、殺虫作用を示す。
- c ピレスロイド系殺虫成分であるフェンチオンは、シラミの駆除を目的とする製品に配合される場合があり、殺虫成分で唯一人体に直接適用されるものである。
- d 有機塩素系殺虫成分は、残留性や体内蓄積性の問題から、現在ではすべての品目が使用されていない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 58 次の記述は、代表的な衛生害虫に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a ツツガムシは、ツツガムシ病リケッチアを媒介するダニの一種である。
- b ノミによる保健衛生上の害としては、主に吸血による痒みであり、病原細菌を媒介することはない。
- c ケナガコナダニの糞や死骸がアレルギーとなって気管支喘息やアトピー性皮膚炎などを引き起こすことがある。
- d トコジラミの防除には、ハエ、蚊、ゴキブリと同様の殺虫剤を使用することはできない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 59 一般用検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 検査に用いる検体は、尿、糞便、鼻汁、唾液、涙液など採取に際して侵襲（採血や穿刺等）のないものである。
- b 一般の生活者が正しく用いて健康状態を把握し、速やかな受診につなげることで疾病を早期発見するためのものである。
- c 検体中に検査対象物質が存在していないにもかかわらず、検査対象外の物質と非特異的な反応が起こって検査結果が陽性となった場合を擬陽性という。
- d 正しい方法で検体を採取し、一般用検査薬を正しく使用すれば、擬陰性・擬陽性を完全に排除することができる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問 60 次の記述は、尿糖・尿タンパク検査及びその検査薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 尿は、食事その他の影響を受けることがなく常に正確な検査結果が得られる。
- b 出始めの尿では、尿道や外陰部等に付着した細菌や分泌物が混入することがあるため、中間尿を採取して検査することが望ましい。
- c 尿タンパク検査の場合、原則として食後2～3時間後の尿を検体とする。
- d 尿糖・尿タンパク検査薬は、尿中の糖やタンパク質の有無を調べるものであり、その結果をもって直ちに疾患の有無や種類を判断することはできない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)